西成地域 日雇労働者の

就労と福祉のために

昭和45～50年度事業の報告

財団法人 西成労働福祉センター

あ い り ん 用 語

ド　　ヤ　やど（宿）を逆に読んだ隠語で簡易宿泊所のこと。

カイコ棚　ドヤの空間を利用し，幾重にも棚を作ってハシゴで上下するベッド式のドヤ。

アオカン　野宿のこと。

マ ン ボ　賃金のこと。

デ ズ ラ　出面表。出勤簿。

バ　　レ（バラス）　仕事待ちを解除すること。就労とりやめのこと。

諸　　式（ショシキ）　飯場での飲食・日用品等のつけや前借りのことをいう。

ボーシン　ボースン（水夫長）から転化し，現場や港湾労働での班長格。

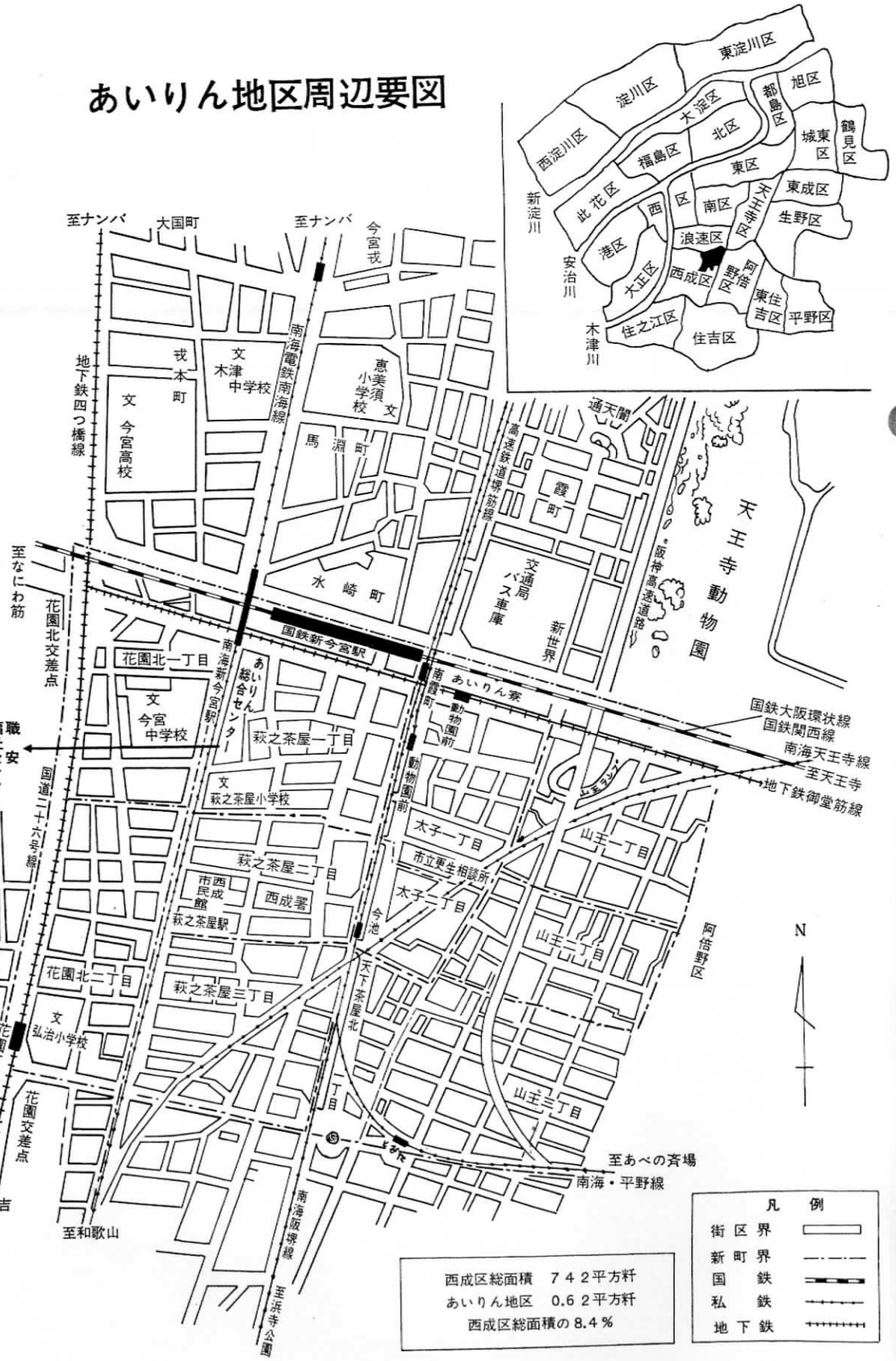
町　　屋（まちや）　民間の個人住宅工事。ビルや公共事業などと区別するとき用いられる。

手　　元　助手・本職の補佐役。

喰い抜き　賃金から食事代を引かないこと。

桁 落 ち（ケタオチ）　賃金や労働条件が著しく劣る場合をいう。また無能力のものをいう場合もある。

あいりん地区周辺要図



◇もくじ◇

1 はじめに …… 1
2 あいりん地区の概況 …… 3
3 職業紹介（無料就労あっせん事業） …… 8
　表 —職業紹介状況 …… 11
4 職業および労働，生活相談 …… 13
　表 —職業および生活相談 …… 16
　表 —産業別・職種別平均賃金状況 …… 17
5 労災休業補償の立替貸付 …… 18
　表 —労災立替等貸付給付状況 …… 19
　表 —労災休業補償立替金貸付状況 …… 21
6 医療相談，短期宿泊の取扱い …… 22
　表 —医療相談，短泊取扱状況 …… 23
7 更生資金等の貸付給付 …… 24
8 日雇労働者健康保険の取つぎ …… 24
　表 —日雇健保取扱状況 …… 26
　表 —日雇健保手帳交付状況等 …… 27
（附）関係機関・団体一覧表 …… 28

はじめに

財団法人西成労働福祉センターは，あいりん地区における日雇労働者の無料職業紹介のほか，関連する労働福祉の諸事業を実施し，労働者の生活の安定と向上をはかることを目的として昭和37年10月１日に設立された。

昭和36年８月１日に端を発したいわゆる「釜ケ崎騒動事件」を契機として各関係行政機関・団体等において，諸般の対策を積極的に進めることとし，大阪府においても36年９月「府労働部西成分室」を急設したが，当センターは，この西成分室の業務を受け継ぎ，以来13カ年を経過したところである。

事務所も，昭和45年10月新築された「あいりん労働福祉センタービル」に移転し，業務内容についても幾多の変遷を経て今日に至り，地区労働者の寄りどころとして労働者のサービスに寄与しているところである。

センターにおいては，毎年度その事業概要を年報としてまとめ，関係方面の参考に資するとともに，業績のあゆみに職員の労苦を刻んで来たところであるが，昭和45年度以降の年報は，諸事情のため遺憾ながら中断の止むなきに至った次第である。

ここに昭和45年度以降６カ年間の資料をひとまとめにして記録にとどめるものであるが，昭和45年度は，万国博が開催されたときであり，その前年は労働需要がピークに達したときであったが，その後高度成長のひずみ現象がみられ，48年後半には遂にオイルショックに端を発し内外の社会経済情勢は大きな転機を迎えるに至った。ついで総需要抑制策がとられ減速経済による不況のかげりは，最近の日雇労働者の雇用についても益々深刻の度を加えつつある。

６カ年という歳月は，センターにおける業務記録としても特筆すべきものがあるが，各年度毎の資料は尨大なものであり到底その全貌・実態をし細にとどめる余裕がないことはまことに残念である。

従って， 各年度の 特記事項諸行事の多くは 割愛せざるをえなかったもので，センターにおいて従来から公的にまとめている統計を中心に必要なグラフを加えるにとどめた。

勿論従前の単年報に比し不満足であり，不充分のそしりは免がれないが，一挙に長年月をまとめるにあたっては止むを得ない面もあり切に御寛容賜りたいと思う。

終りに御協力くださった関係機関，団体の各位に深甚の御礼を申し上げるとともにこの資料がセンターにおける業績のともしびとして６星霜にわたる変遷を汲みとっていただければまことに幸甚である。

2. あいりん地区の概況

(1) 沿　　革

古史の伝えるところによると，この地区はその昔，なにわ江の渚がつづく「難波の名呉の浜」と呼ばれた漁村であったという。

古来の交通路であった紀州街道は，浜海道とも云われ沿道に小部落が点在し，釜ケ崎もその一つであった。

江戸時代からこの周辺は畑場八カ村と呼ばれるそ菜地帯で，明治中期ごろまでつづき，綿・ねぎ・人参・しろうり・藍・甘しよ等の多彩な農産物が消費地大阪へ送られていた。

明治36年，第５回内国勧業博覧会が天王寺公園一帯で開催されたのを機会に，大阪から博覧会場へ通じる今の浪速区日本橋筋３～５丁目に至る細長い地域を拡張して堺筋一日本橋筋を整備したが，この細長い地域は，昔から名護町（前述の名呉の転化か）と呼ばれ不良環境地区を形成し貧困者が多く住みついていたといわれる。

この道路整備により除却された木賃宿や労働者は，追われて関西線を越え紀州街道沿いの入船地区（釜ケ崎の中心）に移り，次第に住みついたのである。

博覧会場跡には新世界歓楽街が生まれ，また大正７年には旧飛田遊廓が開かれ，南海本線と阪堺線が敷設・拡張されるなど交通の発達等により全国から労働者や遊芸人が集まり，これを対象に宿屋街が増加し，釜ケ崎はますます膨張するに至った。

大正７年， 富山県の糸魚川で勃発した「コメ騒動」は， 全国に波及したが，大阪でも最初に釜ケ崎の労働者が蜂起し日本橋筋の米屋を襲った。

さらに，昭和年代に入り，浪速区日東町の都市整備が行なわれたが，これを敬遠する人たちが釜ケ崎に移住し，一層の人口増をみたが，日支事変から第二次世界大戦におよび老人，こどもなど非戦闘員を残して戦争の禍中に巻き込まれ，大阪大空襲により地域の大半は灰燼と期したのである。

釜ケ崎の区域は，関西線の南側，南海線と阪堺線に囲まれた区域とされているが，たまたま昭和36年，交通事故の取扱いをめぐり，この処理に端を発した第１回釜ケ崎騒動事件を契機に「釜ケ崎」の呼称を改め「あいりん地区」と変更された。

さらに，最近，町名や住居表示の変更により，花園北，萩の茶屋，太子，山王など11カ町の区画地域が「あいりん地区」の範囲として指定されたところである。

(2) 面　　積

地区の面積は0.62平方キロメートル，西成区の東北に位置し，西成区域面積の約8.4パーセントで面積的には狭い地域である。

(3) 人　　口

地区の人口は，住民登録者が少い上に，居住者や滞留者は流動的で実数のはあくは困難であるが，約４万２千人（昭和50年度国勢調査では31,197人）と推計されている。

(4) 地区の環境

あいりん地区は，国鉄環状線，南海本線，高野線，阪堺線や地下鉄御堂筋線，同堺筋線などの交通機関が錯綜し，さらには都計街路尼ケ崎平野線，堺筋線などの主要幹線道が交差する極めて交通至便の地域である。

また，この附近は，阪堺線によって東西に分断される恰好で，東の山王地区と西の萩の茶屋地区に分けられるが，両地区の性格は全く異にし，山王地区は遊興的な性格を有するが，萩の茶屋地区は巨大な日雇労働者群の町であり，簡易宿泊所・アパート，飲食店等の各種営業が集中している。

ア　簡易宿泊所等

地区内の主な宿泊施設は，次表のとおりで日雇労働者のほか，あらゆる階層の滞在者がここを拠点に動いている。

業種別宿泊施設

区分＼種別	総数	簡易宿泊所	日払アパート	一般アパート	共同住宅	旅館
数	514	201	39	242	1	31
収容能力	28,716人	20,141人	2,182人	5,583人	100人	710人

いわゆる「ドヤ」と呼ばれるのは，簡易宿泊所で収容数も最も高く，あいりん地区特有の宿泊施設である。

今まで，「蚕棚」とか「追いこみ」とかいわれた雑居形態は，漸次個室化に改められてはいるが，50年２月ドヤの火災により多数の労働者が死傷するという痛ましい事故が発生したようにこれらの施設は今なお前近代的で特に防災上から問題とされている。

イ　宿泊料金

近年の諸物価高騰によりすべての価格が上昇したが，宿泊料金についても次表のとおりである。

	年度	最低（円）	最高（円）	利用度の多い料金（円）
１畳	昭45	90	280	200
	昭50	130	500	200
２畳	昭45	200	300	250
	昭50	170	550	350
３畳	昭45	200	500	400
	昭50	250	1,000	500
4.5畳	昭45	300	1,300	500
	昭50	300	1,600	600
4.5畳以上	昭45	300	1,100	500
	昭50	600	1,300	800
ベッド式	昭45	80	250	150
	昭50	200	300	200

ウ　飲食店営業

この地区を生活の拠点とする労働者や滞留者は，地区内各種の飲食店によって賄われている。利用者の好みにより品目，内容等が豊富であるが，価格は漸次高騰をみ，現在では他地区に比し安価とは言えず，中にはむしろ高価の傾向のものもみられる。

飲食店営業種別ならびに主要食品の対45年比は次表のとおりである。

主　要　食　品　価　格　表

品目＼年度	昭45年	昭50年	品目＼年度	昭45年	昭50年
め　し(大)	50～ 60	100(100)	牛　　乳	30～ 40	60 (60)
め　し(中)	40～ 50	90 (90)	ビール(大)	130～170	230～280 (250)
め　し(小)	30～ 40	80 (80)	ビール(小)	80～100	150～180 (180)
う　ど　ん	40～ 60	90～150 (150)	酒　(特級)	150～200	200～270 (220)
きつねうどん	50～ 70	120～200 (170)	酒　(1級)	105～150	150～210 (190)
玉子うどん	70～100	120～200 (150)	酒　(2級)	60～ 80	110～140 (140)
中華そば	80～120	170～200 (200)	焼　　酎	45～ 50	90 (90)
カレーライス	100～120	200～300 (250)	喫茶コーヒー	40～100	150～200 (150)
み　そ　汁	20～ 30	30～ 60 (50)			

註，昭 50年の（ ）内は，昭 50年末現在の最多価格を示す。

飲　食　店　営　業　の　種　別

	総　数	立呑屋	酒販売業	食　堂	移動飲食店	ホルモン店	喫茶店	すし屋	お好焼屋	中華そば屋
数(軒)	625	123	53	167	20	25	127	36	52	22

(5)　地区労働者の実態

あいりん地区の人口約4万人のうち，日雇労働者は約1万8千人程度と見込まれ，東京の山谷，横浜の寿町以上の規模を有するわが国最大の労働市場を形成している。

年間を通じて，地区労働者は常時流動的で一定しておらず，また時期により集散の度が極めて著しい。

いわゆる盆と暮の季節は，都会の人びとは逆に「あいりん地区」への里帰り現象がみられ膨張する。

特に昭和49年度は，経済不況にともない求人減を生じ，数年前の活況は見られず，かなりの労働者は自ら仕事を求めて飯場に入り，或いは地方の建設工事等を求めて離れるなど，49年後半には約1万3千～1万4千人程度に減少し，不況の影響が極めて大きく反映した。

地区労働者の就労形態別労働者数は次表のとおり推計される。

就　労　形　態　別　労　働　者　数

区分＼項目		就　労　形　態	人　員
職業安定所(分庁舎)	1	行政機関（職業安定所）に登録された者 1)．失対事業に就労する高年令層 2)．港湾荷役に従事する青壮年労働者 3)．民間事業に従事する青壮年労働者	失　対　800人 港　湾　600人 〔あいりん職安 170人 大阪港湾職安 430人 民　間　1,200人 ≪計≫　2,600人
あいりん労働センター	2	公的機関（財団法人 西成労働福祉センター）のあっ旋により就労するもの （但し，行政機関の紹介により就労する一部の労働者を含む。） 1)．建設，製造，運輸事業等に従事する労働者 2)．あいりん職安の紹介で，未充足の港湾労働に従事する青壮年労働者	推　定 8,000人
	3	行政機関，公的機関のあっ旋に依存しない，いわゆる直行，待合せグループ （仲間を通じ，または直接事業主との契約で就労するもの。） 1)．とび職，大工，左官等技能労働者 2)．主として製造，運輸事業に従事する無技能労働者	推　定 7,400人

＜合計＞　18,000人

〔註〕本章「2.あいりん地区の概況」中，簡易宿泊所，食品価格，就労形態はいずれも西成警察署調による。